

# ほん とうに、いい出会い



『農家が教える竹やぶ減らし』  
農山漁村文化協会／編  
出版：農山漁村文化協会

「農家が教える竹やぶ減らし」  
かしく切って、じゃんじゃん活用」  
やっかいな竹やぶを宝へと変える！幼竹メンマ、竹の1メートル切り、暴走を防ぐ間引き、竹炭、竹パウダー、白子タケノコなど、かしく竹やぶの減らし方・生かし方を紹介する「別冊現代農業」2021年10月号を単行本化。



『はじめての脱炭素 見て、知る、サステナブル』  
すなだゆか／作・絵  
出版：小峰書店

「はじめての脱炭素 見て、知る、サステナブル」  
地球温暖化対策に必須の「脱炭素」。二酸化炭素排出量をできるかぎりおさえた「脱炭素社会」の実現に向けて、何が必要なのかを、2ページ1テーマで紹介。一目で理解できる楽しいイラストでわかりやすく解説します。



『センス・オブ・何だあ？ 感じて育つ』  
三宮麻由子／著 大野八生／画  
出版：福音館書店

「センス・オブ・何だあ？ 感じて育つ」  
「感じて」「知る」ことで、豊かな世界が広がっていく。4歳のときに「光とさよなら」した著者が、感じて育つことの大切さを伝える。「こどもとも年少版」折り込みふろくの連載を大幅に加筆修正。



『なつのおとずれ』  
かがくいひろし／作・絵  
出版：PHP研究所

「なつのおとずれ」  
「梅雨明けはもうすぐでしょう」と伝えるかたつむりの天気予報。それを見た太陽は「そろそろみんなに知らせますか」と立ち上がった。その気配を感じたスイカ、セミ、カキ氷たちが、一斉に走り出した！

## 戸籍の窓



- 人口16,205人 (前月比 +11) 男8,047人 女8,158人
- 世帯数7,470世帯 (前月比 +26) (6月1日現在)

※戸籍の窓は、届出者から了解を得て掲載しています。  
※世帯主名、区名は住民票に基づいています。

## >> Vol.27 町長コラム

このコーナーでは毎月、小園町長が町民の皆さんに届けたいメッセージを綴ります。

### トンガ王国を忘れない

5月31日、長野県のPR施設「銀座NAGANO」にトンガ王国のテヴィタ・スカ・マンガシ駐日特命全権大使をお迎えし、ふるさと納税を活用した寄付等で集めた842万円余をお渡ししました。東日本大震災の時に、日本国がトンガ王国からいただいた寄付が約900万円と聞いておりますので、それに近い金額をお渡しすることができ、ひとまずホッとしております。町内外から温かいお志を頂戴し、心より感謝申し上げます。

2月下旬のロシアによるウクライナ侵攻の影響によりトンガの噴火被害に関する報道量が激減。私もニュースの現場に長くいましたので、ニュースは常に移り変わっていくことは理解しています。しかし、トンガの窮状には何ら変わりがありません。もっとできたことがあったかもしれないと悔いもあります。

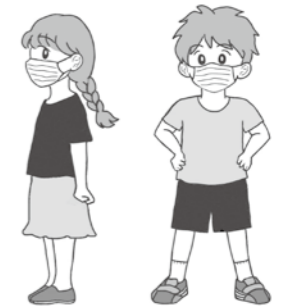
だからこそ、これからもトンガ王国のことを忘れないことが大事だと感じています。

マンガシ大使は、火山観測に関する日本の技術や、浅間山噴火に備えた広域避難体制に関する知見に関し、大きな期待をお持ちのようでした。奥様が長野市出身とのことで、「長野県は私にとって特別な県です」とお話しいただきました。

復興は今後3年間、2億米ドル(約270億円)をかけて進められるそうですが、今年秋には海外との定期航路も復活するとのこと。復興の過程を現地に行き見守るのも支援の一つの形かもしれません。

7月下旬の龍神まつりにも強い関心を持っていただいております。大変お忙しい身ではありますが、もしお越しの際には町民の皆さまに歓迎いただけましたら幸いです。

Shin	ri	shi	Vol.17
心	理	師	「予防 < 見た目、人目？」
Oka	moto	Nao	to
岡	本	直	人



町の心理師、岡本です。

近頃、マスク着用の緩和に関する動きが出てきたので、今回はマスクのお話。

マスクを付けることは飛沫防止や感染予防が主な目的ですが、その目的以外の効果や影響があるかと思えます。例えば、小顔に見えるとか、伸びたヒゲを隠せるとか、それらは人によってさまざまですが、主には「見た目」や「人目」に関するものです(何を隠そう、私もマスク着用をいいことにヒゲ剃りをよく怠ります…)。マスク美人や顔パンツといった用語もよく耳にするようになりましたが、それらもやはり容姿や恥ずかしさなど、「見た目」や「人目」に関連しています。「みんなマスクしているから」「自分だけ外しにくい」といった周りを気にすることもそうでしょう。

このように考えると、本来の目的以上に、マスク着用による心理的なメリットやリスク回避の効果があります。そのためポストコロナあるいはアフターコロナにおいては、心理師としても、マスク着用の緩和がどのように進むのか、あるいは進みにくいのか、注目していく必要があるかなと感じています。もしマスクを外すことに関する困りごとがあれば、それらはれっきとした悩みごとですので、ご相談ください。単に性格や根性、気にしすぎなどの問題ではありませんので。

こうした社会的な変化に対する個別支援はもちろん実施・継続していきますが、家庭、友人や仲間同士、クラスや部活、職場、サークル団体など、比較的小さなコミュニティにおけるマスク緩和の取り組みが、個人的には重要だろうと期待しています。「見た目」や「人目」が影響するからこそ、何人かでやることの意味や、そこから生まれる波及効果もあると思います。もし個人だけでなく、複数人～団体からのご相談もあれば喜んで対応します。

問い合わせ先 教育委員会学校教育係 (32) 9100